

様式第3号（第11条第2項関係）

議 事 概 要 書													
令和7年度 第2回総合教育会議													
開 催 日 時	令和8年2月9日（月曜日）14時00分から14時50分まで												
開 催 場 所	玉野市役所3階 特別会議室												
出 席 委 員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">市長</td> <td style="width: 50%;">柴田 義朗</td> </tr> <tr> <td>教育長</td> <td>多田 一也</td> </tr> <tr> <td>教育長職務代理者</td> <td>横山 純子</td> </tr> <tr> <td>教育委員</td> <td>二宮 崇</td> </tr> <tr> <td>教育委員</td> <td>小野 文子</td> </tr> <tr> <td>教育委員</td> <td>板倉 宏</td> </tr> </table>	市長	柴田 義朗	教育長	多田 一也	教育長職務代理者	横山 純子	教育委員	二宮 崇	教育委員	小野 文子	教育委員	板倉 宏
市長	柴田 義朗												
教育長	多田 一也												
教育長職務代理者	横山 純子												
教育委員	二宮 崇												
教育委員	小野 文子												
教育委員	板倉 宏												
傍 聴 の 可 否 (非公開の理由)	可												
傍 聴 人 数	2名												
審 議 概 要	<p>玉野市立玉野商工高校の現状について</p> <p>その他</p>												
特 記 事 項													
事 務 局	総合政策部長、総合政策部参与、教育次長、教育総務課長、学校教育課長												

令和7年度 第2回玉野市総合教育会議 議事概要

政策企画課作成

日 時 令和8年2月9日（月）14:00～14:50 玉野市役所3階 特別会議室

出席者 【構成員】 市長 柴田 義朗
教育長 多田 一也
教育長職務代理者 横山 純子
教育委員 二宮 崇
教育委員 小野 文子
教育委員 板倉 宏

【事務局】 総合政策部長、総合政策部参与、教育次長、教育総務課長、学校教育課長

1. 協議事項

- (1) 玉野市立玉野商工高校の現状について
- (2) その他

2. 議事概要

市長

先日、多田教育長と立志教育支援フォーラムに行ってきた。志授業を推奨するもので、市内でも取組をしている学校があるが、岡山市の小学校では半分程度の学校が取り入れているらしい。これは、子どもは未来からの使者であるという、インドの詩人のタゴールの言葉から、そういう志を持ったということだと思う。子どもの内在する力を引き出していくために、志を立てるということに触発していると言える。それを経営コンサルタントでもある角田先生がいろいろな手法を考えられ、いろいろな取組の中で、子どもたちの思いを作文に書かせたり、目標を立てて頑張ることを伝えたりして、実際にコンテストのようなことにも取り組んでいる。非常に大切なことを学ばせていただいた。今の学校教育は、必ずしも十分ではない部分があると思う。学力向上や決めごと、ルールなど、これらはもちろん大事だが、自分の力を最大限引き出していくということ、その志を立てることの大切さを改めて感じた。

NHKの番組で、東京オリンピックで金メダルを取った入江聖奈さんという米子出身の方の特集をやっていた。この方は、小学校のときにボクシングの漫画を読んで、ボクサーになりたくて、ボクシングに一生懸命取り組まれた人。誰かに言われてやるわけではなく、自分でやりたいという思いを育てて、周りもそれをしっかり応援した。元々あまり器用でない、運動神経もあるわけではないけれど、ボクサーになりたいという一念で、努力に努力を重ねて金メダリストになった。そういう思いの強さは、何かを成し遂げたり、力をつけていくために必要である

と改めて感じた。玉野でもそういう教育ができれば、と改めて感じた。

本当にいろいろな課題がたくさんあるが、玉野の教育をより良くしていく努力を、これからも皆さんと一緒にやっていきたいと思っている。

総合政策部参与

「玉野市総合教育会議運営要綱」の規定により、議事の進行は市長にお願いします。

市長

本日の議題「玉野市立玉野商工高校の現状」について、事務局の方から説明をお願いします。

学校教育課長

玉野市立玉野商工高等学校の現状について資料に沿って説明する。まず、「1 玉野商工高校の状況」として（1）入学者数の推移・状況についてであるが、玉野商工高校は、平成30年度に機械科を新設してスタートした。そのときの募集定員は、ビジネス情報科120名、機械科40名、計160名となっている。ただ、新設して以来、平成30年度から令和7年度まで、入学者数が募集定員を満たしたことはなく、年々入学者数、志願者数ともに減少している状況にある。

科別で見ると、令和元年度に機械科が一度、募集定員40名を満たしたことがあるが、全体で見ると、過去に定員を満たしたことはなく、定員割れという状況になっており、令和5年度からは100名を切っている。さらに、入学者の玉野在住の割合も年々減少しているといった状況にある。

参考資料1の赤字の数字については、先週行われた令和8年度の特別入試の出願者数を載せている。

志願者数が減る中で、（2）入学者（生徒）確保に向けた取組の経緯として、令和5年度には全国募集を開始した。令和5年度以降、県外から数名の入学者はあるものの、入学者数は100名を切ったままとなっている。令和6年度から募集定員の削減として、ビジネス情報科の募集定員を120名から80名へ、1クラス分減らし、募集定員全体は120名にしているが、それでも募集定員には満たず、入学者数は100名未満といった状況にある。

参考資料2に、玉野商工高校の入学者の推移を、玉野商業高校の時代からまとめているので、併せて確認いただきたい。

続いて、「2 玉野市内公立高校の状況」だが、もう一つの市立高校の備南高校の状況については、参考資料1の右側に入学者数を載せている。備南高校については、平成30年度に通級による指導を開始し、令和2年度から普通科のみの昼間定時制となっている。それまで夜間総合技術学科を設置していたが、令和2年3月31日で廃止した。

備南高校については、通級による個に応じた指導と学び直しの定時制の学校として、中学生から一定のニーズがあり、近年、志願者数、入学者数ともに増加傾向にある。不登校や支援を要する生徒の増加により、学び直しの学校が非常に重要になっている。

続いて、市内中学校卒業生の市内公立高校への進学状況について、参考資料1

のグラフにあるように、平成 30 年度入学者は 6 割を超えていたが、市内の公立高校 4 校への進学割合は年々減少している。令和 7 年度の入学者は、約 54 パーセントとなっている。

次に、「3 県内・市内の生徒の状況」について、参考資料 3 に、市内・県内の中学校卒業者数の推移、見込みも含めた数を載せている。市内・県内ともに、中学校卒業者数（中学 3 年生の生徒数）は減少傾向にある。市内中学校の卒業生における特別支援学級の生徒の割合は年々増加している。数字には出ていないが、中学生の進路選択の多様化、私立高校や通信制高校等への進学を希望する生徒が近年増加しており、市外へ進学希望をする生徒が増えている状況にある。

市内 4 校への進学割合の減少は、進路が多様化し、中学生の状況が大きく変わっていることが影響している。こうした中で、市立高校の再編に向けた本市のこれまでの取組内容として、平成 30 年度に玉野商業高校に工業系の機械学科を新設し、商工高校に変わった。併せて平成 30 年度から令和元年度にかけて、玉野市立高校在り方検討会議を開催している。また、備南高校は令和 2 年度に夜間総合学科を廃止し、昼間普通科として現在の特別支援教育を重視した学校としている。

以上、玉野市立玉野商工高校の現状と併せて本市公立高校の状況も含めて説明させていただいた。

市長

玉野商工高校の現状について、100 人を切る状態が 4 年続きそうな状況で、環境的には大変厳しい状況と思う。このことについて意見交換したいと思う。

小野委員

先ほど説明のあった在り方検討会議について、どういった話がなされたのか教えてほしい。

学校教育課長

在り方検討会議については、平成 30 年度から令和元年度に計 4 回開催した。主に、今後どのような形に持っていくのか、特に高校の魅力化を図っていくということについていろいろな意見をいただいた。市立高校の特色や目指す方向性として、本市の特徴である地域と連携した魅力ある学校づくりを進めていったらどうかという意見をいただいた。特に地方創生の視点から、市内高校の役割や機械科の新設といったことから、地域貢献、地域の人材育成という視点からもいろいろ考えていく必要があるという意見をいただいている。

また、生徒が減っていく中で状況を見ながら、今後、適正な公立高校の在り方についても考える必要があるという意見もいただいた。

市長

具体的にこんな方向で新しい教育を考えよう、といった提案はなかったのか。

学校教育課長

例えば商工高校については、魅力化ということで、社会人として活躍できる人間力の育成であったり、特色ある教育カリキュラムの構築、多様な進路先を選択できる進路指導の充実、小中学校との連携体制、きめ細やかな生徒指導支援体制の構築、さらには積極的な広報活動の推進、そういった内容をしっかり進めなが

ら、魅力化を図っていこうという話であった。

併せて、魅力化として想定できる取組として、全国募集の可能性や部活動の充実、通学の利便性の向上といった話もあった。

市長

魅力化については、玉野ならではの、玉野の特色を活かすということで、以前、議会から部活動に自転車部を作ったらどうかという話があった。民間からは、観光で玉野を盛り上げていこうとしているので、観光学科を作って、おもてなしができる人材や観光振興を盛り上げられる人材を育成してはどうかという提案をいただいた。ただ、いずれもハードルがあつて、実現に至っていない。

そういう中でも、待ったなしで入学者が減っている。この状況を県立高校の基準に当てはめると、2年連続で100人を下回ると再編の対象に該当することになる。市立なので、そのまま当てはめるわけではないが、一般的な基準としては、高校の規模や運営上の基準からすると、かなりイエローゾーンに入っているということになる。

二宮委員

今、市長が言われたように、新たな取組として、部活動であるとか、新たな学科というのも良い案だと思った。商工高校の特色としていろいろ考えられていて、機械科の新設や全国募集もそういった取組だと思う。機械科が民間の企業と提携をして授業や実技をしているのも特徴的なことだと思う。今の流れとして、手に職をつけるのは高校からといった少し早い段階からという考え方もあると思うので、そのあたりはマッチしていると思う。

そうすると、この特徴をいかに発信していくか。新しい取組もプラスで必要だと思うが、今やっていることも良い取組だと思う。特に機械科が民間と提携してやっていることはしっかりPRして、まずは知っていただかないと、なかなか応募にもつながらない。全国募集として広く募集しているので、商工高校の魅力や特徴を知っていただく、そういう広報に少し力を入れていくことも今後必要だと思う。

市長

発信がまだまだというところはある。これも競争だと思う。公立だけではなく、私立も広告宣伝費を結構かけて立派なパンフレットを作ったり、オープンスクールで良いものを見せたりといったことをふんだんにされているので、それに追いついていくというのは、なかなか大変な部分はあるとは思いますが、必要なことだと思う。

板倉委員

今年度、商工高校に視察で伺ったが、特徴的な取組として、地元で根差した良い教育、魅力ある教育をされていることを本当に感じた。先ほど二宮委員も言われたように、そういった取組や魅力をもっと発信していくことはとても大切だと思う。

ただ、少子化の状況や、玉野の高校に行ってくれる玉野の小中学生がだんだん減っている状況の中で、今後、魅力的な学校づくりを発信しても、劇的に変わる

のは難しいのではないかと考えている。

県立の状況に加え、県の再編基準や動向も見ながら、今後玉野の高校はどうあるべきかということについては、今の状況から考えると、早急に検討をしていく必要があると思っている。

市長 市内に高校が4校あって、全体的に考える必要があるのでは、ということ。

板倉委員 商工高校については、本当に魅力的な取組をされているけれども、魅力が十分伝わっていないのか、少子化などの社会的な影響なのか、分からないところもあるが、生徒数が減っている状況にあるので、どうするかということについてしっかり検討していく必要があると思う。

小野委員 商工高校を見学させていただいて、施設も良く校長先生の取組も一生懸命されていて、とても良いカリキュラム内容で、能力別クラスにするなど、魅力あるための努力を一生懸命されていると思った。

生徒数がついてきていないことが残念である。一番気になったのが市内中学校卒業生の進学割合。私は玉野高校だったが、その時は同級生が1,000人ぐらいいて、450人ぐらいが玉野高校に行き、商業高校に行った生徒とあわせると、おそらく8割ぐらいは市内の高校に行っていたのではないかなと思う。

光南高校ができたり、最近では私学も無償化したりと、そういうことも含め、どんどん情勢が変わってきていることが大きく関係していると思う。

人口減を考えたときに、中学校卒業生数が今年度が368人、来年度が353人、令和12年で404人になっているが、今年の小学1年生が市内で300人ちょっとだったと思う。保幼に入る子どもは、確か200人ほどだと思うので、この人口減がV字回復すれば良いが、なかなか大変なことになっていると思う。

市内では県立高校も頑張っているし、商工高校も頑張っているけれど、お互いに少なくなっているという現状もある。他の市のことも考えてみると、北部はどんどん人口減になってきていると思うが、南部において備前市では、普通科の備前東高校と、備前焼などを造る学科もあった備前高校が、20数年前に一緒になって備前緑陽高校になった。備前市としては子どもたちが困らないように、通学を工夫した。県立同士だったから、併合しやすかったと思う。また、倉敷市児島では、普通科の児島高校と商業科の琴浦高校が一緒になって倉敷鷺羽高校になった。このように県立同士では、商業科と普通科が一緒になっていることもある。ただ、備前緑陽高校も倉敷鷺羽高校も1.0倍を切っている状況であるが、現在両方とも頑張っているとは思う。

玉野商工高校の場合は、玉野市立ということで、頑張ってきていると思うが、少し考える時期に来たのではという気もする。

横山委員 昨年、商工高校を視察させていただいて、県内では珍しい高校であること、特に機械科については、三井E&S内に実習棟があり、技術者の方に直接指導して

もらっていることは、地元産業の人材育成や技術継承につながる面もあって、企業側にとっても価値のある取組であると感じ、専門高校としての魅力を再確認したところである。

しかし、今日の説明資料を見て、全国募集をしたり、広報したりと様々な取組をしているが、なかなか入学者数が増えないという実情があり、この数字を見る限りにおいて、これまでの努力だけでは限界に来ているのではと感じざるを得ない状況である。市内の子どもたちが市内の高校に行かないとなると、若者の流出であるとか、地域の衰退を加速させることにもつながり、それは由々しき問題であると受け止めている。

子どもたちが玉野で質の高い高校教育を受けるための環境はどうあるべきかというところを、数字を見る限り、喫緊の課題として、新たな教育モデルなどあらゆる選択肢を視野に入れながら、将来の方向性を具体的に検討しなければならない段階に入っていると思う。

市長

今の中学校卒業生の動向を見ても、この先数年は横ばいのように見えるが、もっと減るのは間違いない。今の数字でも厳しいが、これ以上減っていくと本当に存続に関わる話になってくるので、喫緊の課題として検討すべきということになる。

教育長

高校教育の質が保たれていなければ、選ばれる学校として存在しにくい。高校教育の質は高校を選ぶ基準だと思う。先ほどから話に出ているように、市の児童生徒数が今後減少していき、さらに選択肢が非常に増えて、市内の高校だけではなくて、市外の公立あるいは私立が選ばれ始めているところで、商工高校のさらなる魅力化に取り組み、発信しなければならないわけだが、学校もかなり精一杯頑張ってくれていて、学校単体だけの努力ではどうにもならないぐらい生徒数が減少しているのが現状ではないかと思う。

県立の基準でいうと、高校の適正規模は1学年4クラスということだが、4クラスを満たせていない学校が12~13校ぐらいある。商工高校もその数になっているので、商工高校の生徒が減ってきた中、本市として、どこまで学校を維持するのかというのも決めなければいけない。県立高校の動向も注視していかないといけない。ご存知のように、真庭高校が100人を2年連続で切って、真庭高校と勝山高校で再編準備をしている。笠岡工業も100人を切って、笠岡商業と笠岡高校と再編準備をしている。そういった対象校になる時期というのが思った以上に早く訪れる可能性もあるので、本市としても検討を早急に始めていかないといけないと思っている。

市長

玉野市内で質の保たれた高校教育の場を確保する必要があると思う。ただ、市としてどこまで維持できるか、県立との役割分担もあるので、県立も含めて在り方を考えていく必要があるのではないかと感じる。

商工高校の教員の人事については、県教委に委ねてやっていただいているので、

県に相談しながら玉野エリアでどのように高校教育を維持していくかということ
を早急に考えていく必要があると思う。

具体的には、まず内部で検討しつつ、どこかの時点で外部の方の意見も聞きな
がら固めていくというプロセスがいると思う。

教育委員会として今日の意見を踏まえて検討していただいて、機会を設けて有
識者の方からも意見を聞き、当然市民にも説明しないといけないが、どういう方
向で行くかということをもとめていただくようお願いしたい。

総合政策部参与

次第の二番の議事は以上で、三番の「その他」に移りたいと思う。あらかじめ
こちらで用意したものはないが、出席者の方々から何かあればお願いしたい。

市長

小中学校の再編、適正規模・適正配置については、昨年の3月末に計画をまと
めて、今年度から中学校を先行して、再編準備委員会を立ち上げて進めていると
ころだが、今のところ中学校の方は、いろいろな意見もあるが、計画に沿って進
めている状態だと認識をしている。

ただ、今後小学校の再編になってくると、事前の計画作りの段階で、いろい
ろな地域を回ってご意見を聞く中で、今後も、一定のご意見が出る可能性がある地
域も予想されるので、より丁寧に市民への説明を行い、保護者の方や地域の方の
理解を得ながら進めていく必要があると考えている。

完全に合意を得るといえるのはなかなか難しいと思うが、一定程度の理解を得
ながら、進めていくことが、大事だと思っており、今の計画を進めていく上でも
大切になると思っている。去年の議会、それから市長選挙の時にも、いろい
ろなご意見をいただいたが、私も強引に進めるつもりはないということは前から言っ
ているし、やはり一定程度の理解を得ながら進めていく必要がある。ただ、必ず
しも多数決で決めるようなものではなくて、教育委員会そして有識者の方のご意
見も踏まえて、適正な教育、環境を作っていくということが、我々の使命だと思
っている。理解を得ながら、進めていかざるを得ない部分もあると思うので、丁
寧に進めていくというところをお願いしたい。

教育長

中学校の再編が今進んでいるが、昨年の3月に案が策定されて、中学校が令和
9年という予定にしていたので、確かにややタイトな日程の中ではあったが、可
能な限り説明会に行かせてもらった。日程が少し早いというご意見は確かにいた
だいた。小学校については、計画までまだ期間がある。それぞれの学校、地域の
実情によって、賛否あるので、この再編の必要性をその地域に赴いて、丁寧に説
明する。特に小学校は義務教育の学校でもあるし、地域の拠点という意味合いも
あるので、可能な限り丁寧に説明していこうと思っている。

市長が言われるように、多数決を取るようなものではないと思うので、その辺
をご理解いただけるように説明を繰り返ししていこうと思っている。

二宮委員

地域の方や保護者の方は、本当に今後どうなるのであろうかということ、計画

や素案が出ている中でも、見えにくい部分ややってみないと分からない部分があると思う。そういう不安というものは、説明会等で今までも声が上がっていたと思うし、今後も出てくると思う。

その中で、今回の再編とはまた別だが、既に胸上小学校と鉾立小学校と一緒にやっていることは、すごく参考になると思う。しっかり事前に分かる課題は吸い上げて、実際胸上や鉾立と一緒にやっている中での、良かった点、それから課題もあったと思うので、その辺もしっかり参考にしていく。今後の再編、それから中学校が先に進んでいるので、そういうものをしっかり今後の小学校にも生かしていくことも必要だと思う。

地域性もあったり、いろいろ課題も違う部分はあると思うが、参考になると思う。胸上小学校へ視察に行ったが、すごく良い雰囲気、スクールバスも見せていただいたが、立派なバスだった。若干乗る人数は少なかったが、そういう形でもう既に進んでいるところがあるので、これをしっかり参考にしながら、今後の中学校、それから小学校の再編にも生かしていければ良いのかなと思う。また、そういうところもしっかり発信して理解していただくということで、より皆さんが安心して再編に向かっていけると思った。

小野委員

二宮委員がおっしゃったように、学校という場所の中で、子ども楽級やおさらい会などにも参加させていただき、地域の方の取組や、子どもたちへの思いが分かった。これからもより丁寧に発信していくことが大事だと思った。

板倉委員

玉野市として、より良い教育はどうあるべきかということに関して、適正規模とか適正配置というのはとても大切なことだとは思いますが、先ほど言われたように、丁寧に説明していくということもとても大切だ。強引ではないかという話もあるとのことなので、そうではなくて、しっかり合意形成して進めていきたいと思う。

子どもたちにとって適正規模・適正配置をより進めていった方が良いのではないかという思いはもちろんあるが、それをしっかり皆さんにも理解していただくためにも、丁寧に説明することはとても大切なことだと思う。

市長

この学校再編が、少なくなったから単にくっつけますではなく、これを機に玉野の教育をより魅力的にするんだという前向きな要素も入れながら、例えば英語教育に力を入れますとか、何か新しいことをしますとか、冒頭申し上げた志教育のような特色を出して、玉野で教育を受けさせたいと思ってもらえるような、教育環境を作る契機にしていきたいと思う。

総合政策部参与

以上で、令和7年度第2回玉野市総合教育会議を閉会する。

以上